

臨時休業の影響は県によって異なる

【図表6】学期末の行事予定を変更
～臨時休業による学校行事の変化(一例)

2019年度		→	2020年度	
6月	3年外部模試		3年外部模試	学校再開 3年外部模試
	期末テスト			
7月	3年外部模試		3年三者面談	期末テスト
	3年三者面談 終業式		夏休み	3年外部模試
8月			3年三者面談 終業式	夏休み
			夏休み	始業式

*【図表5、6】は編集部作成。【図表5】は都道府県教育委員会資料などをもとに作成。6月2日時点。

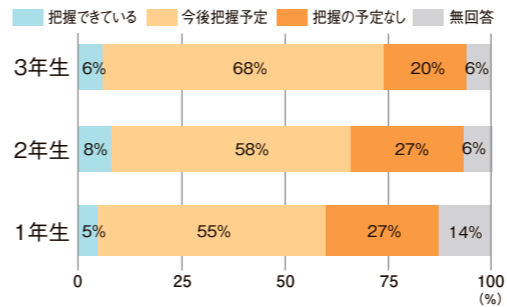
【図表5】授業再開日は県で異なる～公立高校授業再開日一覧

都道府県	授業再開日	都道府県	授業再開日	都道府県	授業再開日
北海道	6月1日	石川県	6月1日	岡山県	6月1日
青森県	5月7日	福井県	6月1日	広島県	6月1日
岩手県	5月7日	山梨県	5月25日	山口県	5月25日
宮城県	6月1日	長野県	5月23日	徳島県	5月21日
秋田県	5月11日	岐阜県	6月1日	香川県	6月1日
山形県	5月25日	静岡県	5月25日	愛媛県	5月25日
福島県	5月25日	愛知県	6月1日	高知県	5月23日
茨城県	5月25日	三重県	5月18日	福岡県	5月18日
栃木県	5月25日	滋賀県	6月1日	佐賀県	5月14日
群馬県	6月1日	京都府*	5月25日、6月1日	長崎県	5月11日
埼玉県	6月1日	大阪府	6月1日	熊本県	6月1日
千葉県	6月1日	兵庫県	6月1日	大分県	5月11日
東京都	6月1日	奈良県	6月1日	宮崎県	5月25日
神奈川県	6月1日	和歌山県	6月1日	鹿児島県	5月11日
新潟県	6月1日	鳥取県	5月7日	沖縄県	5月21日
富山県	6月1日	島根県	5月25日		

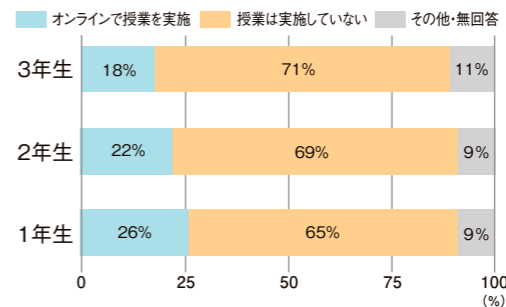
*京都府の再開日はエリアにより異なる

学習・授業進度、学力把握が遅れている

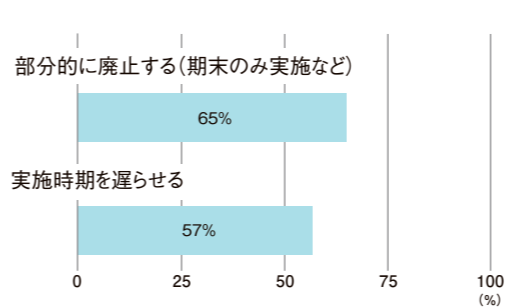
【図表2】学力把握は1割以下
～休業中の学力把握



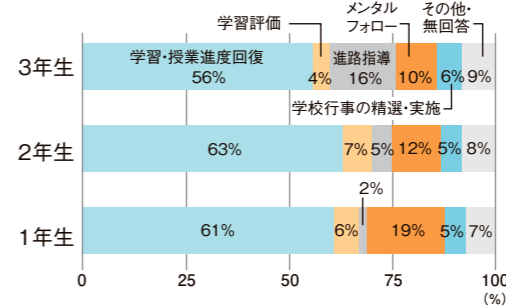
【図表1】オンライン授業実施は約2～3割
～休業中の授業実施



【図表4】定期テストの実施時期を見直す
～休業明けの定期テスト実施見直しの決定状況



【図表3】学習・授業進度の遅れ回復が最優先
～休業明け対応での最優先事項



*【図表1～3】は「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校指導への影響に関するアンケート」ベネッセコーポレーション(2020年4月20日～5月1日実施。高校教員543人) 【図表4】は第2回調査の結果(2020年5月18日～27日実施。高校教員247人) 小数点以下を四捨五入

REPORT

with
コロナの

高校教育と進路指導

突然始まった臨時休業という事態に
高校はどう対応したのか?
今後、学習指導、進路指導は
どう変化し、大学にはどのような対応が
求められるのか? 高校教員への
アンケートとヒアリングを基に考察する。

休業の影響はいつまで続く?

授業は?

学習・授業進度の遅れの回復が最優先課題

春先の状況を一度振り返ってみる。全国の小中高校に休業要請が通知されたのは2月28日。翌週の3月2日以降、全国の学校が順次一斉休業に入り、その状態が2、3か月続いた。この間、高校ではどのような指導が行われていたのか。ベネッセコーポレーションが全国の高校教員を対象に実施した調査を基に見ていく。

4月下旬の時点で、オンライン授業を実施していると回答した割合はどの学年も約2/3割で、約7割は授業を実施していないと回答している【図表1】。かわりにほとんどの高校では、宿題を課し

ていたようだ。5月以降は環境が整い、オンライン授業を開始した高校が増えたが、3、4月に予定していた学習については、授業が行われず、宿題を通じた対応しかできなかったことが考えられる。授業の実施よりも困難だったのが、生徒の学力把握だ【図表2】。「把握できている」と回答したのは、どの学年も1割以下であった。休業期間中はテストの実施が難しく、宿題の取り組み状況やアウトプットの質で生徒の学力を把握するしかなかった状況がうかがえる。

休業明けの状況はどうか。どの学年も最優先事項のトップに「学習・授業進度の回復」を挙げている【図表3】。そのため、多くの高校が夏休みの短縮、土日の授業実施、平日補習の拡充などにより、

進度の遅れを取り戻すことに重点的に取り組んでいる。

1学期の定期テストの実施時期も見直されている。中間テストを廃止して期末テストのみにしたりと、実施時期を遅らせたりするとの回答がいずれも5割を超えている【図表4】。

さらに、地域差についても留意しておきたい。県によって授業再開日は異なっており【図表5】、青森県や岩手県、鳥取県は5月7日から再開した一方で、6月1日から再開した東京都や神奈川県などでは、再開後に分散登校や短縮授業の実施が続いていたところもある。高校対象の施策の企画や、実施に当たっては、県ごとの状況の違いをふまえ、きめ細やかな対応が必要だ。

進路指導は?

志望校や進路の検討が全学年で遅れている

次に休業が進路指導に与えた影響を見ていこう。
3年生については、定期テストや実力テスト、外部模試などによる学力把握が困難だったため、休業期間中は現在の学力をふまえた志望校検討はほとんどできなかった

たとえ考えられる。加えて、1学期の期末テストが後ろ倒しになったことで、三者面談も後ろ倒しになり、学校での志望校検討開始が例年よりも遅くなっている【図表6】。夏休みが短縮されたことで、生徒はじっくりと志望校研究を行う時間もとれない状況だ。そのため本年度は、9月以降も志望校検討が十分に進んでいない受験生が多いのではないかと懸念している。志望校検討の視野を広げ、自分にあった大学選びを促す情報提供を、大学は考える必要があるだろう。

影響を受けたのは、3年生だけではなく、2年生では、春休み、夏休みのオープンキャンパスや体験授業などが中止され、進路について考える機会が減っている。そのため、1年生では文理選択の判断材料が不足しており、2年生では具体的な進路イメージを持たない生徒が増えているとの声がかかる。経済的な理由により進学が困難になった生徒への対応も課題だ。次年度以降の学生募集をにらんで大学には、1、2年生に対して、経済的支援に関する情報に加えて、自学の教育を卒業後のキャリアとからめて紹介するなどといった情報発信の工夫をお勧めしたい。

【図表7】休業中にICTの活用が校内に広まった～臨時休業中の指導とICTの活用

学校名	学習指導	3年生の進路指導
福井県立若狭高校 小浜市 ▶全日制(普通科、文理探究科、海洋科学科)／定時制(普通科) ▶男女共学 ▶1学年生徒数:約280人 ▶大学合格実績:国公立大／91人 私立／早稲田、明治、同志社、立命館他(2019年)	【3月】 課題中心の学習。毎週月曜日にその週の課題をHPにアップ。Zoomを使った英語暗唱テストなど、各教科担当が工夫してICTを活用した指導を始める 【4月】 4月13日から、毎朝オンラインでホームルームを実施。健康状態や学習の進捗状況などを確認し、生活リズムの確立と学習支援を行う 【5月】 5月11日から、オンライン授業を開始。時間割を組んで午前中に50分3コマで実施。午後は課題などに取り組む。生徒の質問に答える形で、双方向型の授業づくりに取り組む	・登校日にZoomを利用して、生徒向けに進学・就職・公務員ガイダンスを実施。保護者向けには説明動画を作成し、YouTubeで限定公開 ・1、2年の探究学習のまとめに取り組む。自分がこれまで取り組んできたことが、withコロナの世界でどう生かしているかなどについて考えるようにYouTubeを使って伝える ・オンラインで生徒がOECD世界教育会議や、岡山大学「SDGsユース特別編オンラインワークショップ」に参加
神奈川県立川崎北高校 川崎市宮前区 ▶全日制(普通科) ▶男女共学 ▶1学年生徒数:約300人 ▶大学合格実績:国公立大／1人 私立／桜美林、神奈川、関東学院、国士館他(2019年)	【3月】 2019年度中までに、県教委が全県立高校にネットワーク、端末、クラウドを整備し、全生徒にGoogleアカウントを配付 【4月】 オンラインでの指導開始。全校生徒がGoogle Classroomを使用するように指導する。アカウントを持っている2、3年生には、始業式でログイン方法を説明。1年生には、入学式でアカウントを配付。教員を対象にICT活用の校内研修会を実施。その後、オンデマンド型の動画教材の作成に取り組む。Google Meetでホームルームや課題の質問対応を行う 【5月】 英語のスピーチや音楽の歌を音声データとして提出させるなど、さらに指導の工夫を行う	・進路説明会に代わる動画を配信 ・Google Meetで二者面談を実施 ・Google Classroomで、進路に関する情報を提供 ・「志望理由書の書き方」を動画などを使って指導 ・Googleのフォームを使って進路希望調査を実施
岡山県立瀬戸高校 岡山市東区 ▶全日制(普通科) ▶男女共学 ▶1学年生徒数:約160人 ▶大学合格実績:国公立大／36人 私立／岡山理科、就実、ノートルダム清心女子他(2019年)	【3月】 ICT活用の準備を行う。全国のオンライン講座の実践モデルや規定などを収集し、20代でICTが得意な数学教員4人を中心に自校でのICT活用を検討 【4月】 オンラインを活用した指導をお試し実施。4月20日からの休業期間中に、「お試し部活動ミーティング」や「お試し朝の会」をオンラインで実施。その様子を他の教員が見学する時間(研修会)を設けた 【5月】 オンライン講座を5月11日から実施。朝の会と1日3コマ(1コマ40分)の講座をオンラインで行う。Google Classroom使用に向けての研修会実施。	・5月1日に、岡山市内の看護師の方を講師に、オンラインフィールドワーク「看護の現場 with コロナ」を初めて開催 ・5月25日からの4日間は、オンライン講座の後、16:20～17:00の時間帯でオンラインフィールドワークを実施 ・オンラインキャリア相談室「志望理由書の作り方」を開設。希望者に対してキャリアコンサルジュの教員がオンラインで面談。1年からの学びを振り返り、希望進路とこれまでの学びを通して得た力や経験との関係を一緒に整理しながら、志望理由を練り上げていく

コロナ禍でICT活用が進むと 高校の学びや指導はどう変わる?

突然の休業要請は、高校現場に混乱を招いた一方、中にはICTの活用が一気に進んだ高校もある。公立3校の事例を紹介する。

福井県立若狭高校

4月以降も休業が続くとわかった時に、まず最初に行ったのは、LINEなどを使っての生徒の状況把握だ。その理由を中森一郎校長は、「本校は、生徒の支援を第一に考えている。有効な支援策を検討するには、まず生徒の状況を知ることが大事だと考えた」と振



▲若狭高校では学校のHPでクラスごと、教科ごとの情報を発信

り返る。調査の結果、計画的に学習に取り組む生徒がいる一方で、昼夜が逆転し生活のリズムが乱れ、学習時間の確保ができていない生徒が少なからずいることがわかった。この状況を改善すべく、「生活リズムの改善」「学習支援」「悩み相談」の3つを重点的に行うことにした。例えば担任がLINEを使って生徒と毎朝連絡を取り、励ますことで、学習時間は1日平均40分伸びたという。生徒の中には、オンラインでつなごうと自習する、オンライン自習に取り組みするグループもいた。ほかに、苦境に立たされた地域の飲食店を支援しようと、テイクアウト情報のまとめサイトを立ち上げた生徒や、そのサイトを盛り上げるため、テイクアウトメニューのフォトコンテストを企画した生徒もいた。「これは、探究学習で地域のことを地域の人に教えてもらった経験があったからできたこと。その子の学習経験からは、その子の未来の可能性が読み取れるはず。大学入試では、生徒が3年間学んだプロセスを基に未

来の可能性を含めて評価してもらいたい」(中森校長)。

神奈川県立川崎北高校

神奈川県教育委員会では、前年度に全県立高校にネットワーク、端末、クラウドを整備し、全生徒にGoogleアカウントを配付していた。川崎北高校は、その基盤を生かした指導を行うべく、臨時休業に入った4月8日に、教員向けICT研修を実施。翌週から授業動画の配信をスタートさせた。動画制作は「今ある機材でできることを、シンプルにやる」というコンセプトの下、多少のトラブルがあってもワンテイクで撮影を終わらせ、凝った編集をしないようにしたという。動画で志望理由書の

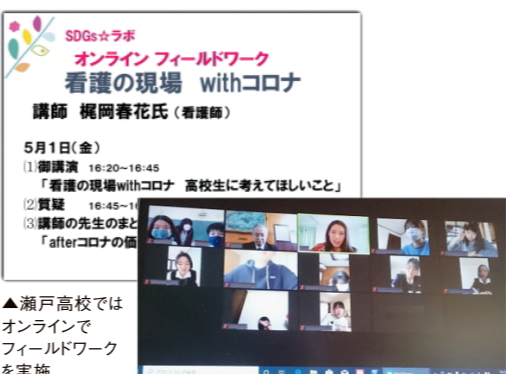


▲川崎北高校では授業動画作成のノウハウをHPで公開している

書き方指導を行うなど、進路指導でもICTを活用している。「オンデマンド型授業は繰り返し視聴できるし、ライブ型授業は質問がしやすいなど、オンラインならではのメリットを実感した。対面授業の再開後も、このしくみが併用できると考えている。本校が授業動画制作のノウハウを公開しているのは、全国の高校や大学と情報交換をしたいから。ICTの活用を通じた学校開放も進めていきたい」(柴田功校長)。

岡山県立瀬戸高校

瀬戸高校は、教員も生徒も「自走するイノベーター」になることを目標にしており、学校の外に「越境」して地域の課題を考える探究学習に力を入れている。しかし、



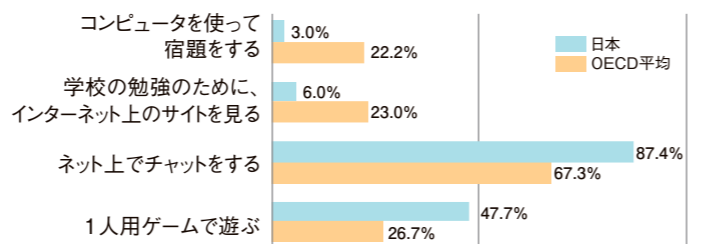
▲瀬戸高校ではオンラインでフィールドワークを実施

休業当初はICTの整備の遅れから、立ちすくんだ状態だったが、キャリアコンサルジュを務める絹田昌代指導教諭は振り返る。それでも、「生徒の学びを止めたくない。探究学習の続きもさせたい。特に不安を抱えているであろう3年生には、学校推薦型や総合型選抜への対応もしてやりたい」との強い思いから、学校でのICT活用を一気に進めたという。5月1日には、コロナ禍にある看護の現場を、現役看護師に語ってもらおうオンラインフィールドワークを実施。16人の生徒が参加した。オンラインの活用は、生徒に会わせたい人物を招く際の「費用」や「時間」のハードルを下げたという。8月には、同校の生徒がオンラインで世界会議に参加して、教育について世界の高校生とセッションする予定だ。オンラインの活用は、高校生が世界に飛び出すハードルも下げている。「探究や越境の学び合いによって生徒は、深い学びを体験している。その生徒の学びを大学進学後も止めないでほしい」(絹田指導教諭)。

高大接続に欠かせない ICTを活用した教育改革

OECDの調査によると、諸外

【図表8】日本の子どもの学習におけるICT活用は進んでいない～OECDのICT活用調査



*OECD/PISA 2018年 ICT活用調査「学校外での平日のデジタル機器の利用状況」【毎日】「ほぼ毎日」の合計 一部抜粋

国に比べ、日本の子どもはチャットやゲームでICTを利用しての反面、学びへの利用はほんの数%という実態であった【図表8】。しかしコロナ禍の中、学びを止めないという意思の下、今、教育へのICT活用が急速に拡大しつつある。そしてそれは、探究学習の活動範囲を広げ、授業の個別最適化を進めるなど、高校生の学びを大きく変えようとしている。こうした高校教育の変化を受け止めるために大学でも、ICTを活用した教育改革を継続的に推進する必要があるだろう。

*1 生徒の要望に応じて、キャリア形成のアドバイスや学びの機会のセッティングを行う教員